

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第1部門第2区分  
 【発行日】平成24年9月13日(2012.9.13)

【公開番号】特開2010-119714(P2010-119714A)  
 【公開日】平成22年6月3日(2010.6.3)  
 【年通号数】公開・登録公報2010-022  
 【出願番号】特願2008-297383(P2008-297383)  
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【FI】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月26日(2012.7.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する可変表示手段を備え、該可変表示手段における識別情報の表示結果が特定表示結果となったときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、

通常遊技状態と、前記特定遊技状態とは異なる遊技状態であって、前記通常遊技状態よりも遊技者にとって有利な特別遊技状態と、を含む複数の遊技状態のいずれかに制御する遊技状態制御手段と、

遊技状態が前記通常遊技状態に制御されているときと前記特別遊技状態であるときとで共通の演出状態に制御する演出モード制御手段と、

前記共通の演出状態に制御されてからの前記識別情報の可変表示の実行回数を計数する回数計数手段と、

前記演出モード制御手段により前記共通の演出状態に制御されている場合において、遊技機に設けられている演出装置を用いて報知演出を実行する報知演出実行手段と、を備え

、  
 前記報知演出実行手段は、前記回数計数手段により計数された前記識別情報の可変表示の実行回数が所定回数になったときに、前記通常遊技状態に制御されている場合よりも前記特別遊技状態に制御されている場合に高い割合で前記報知演出を実行する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

識別情報は、第1識別情報と、第1識別情報とは異なる第2識別情報とを含み、可変表示手段は、第1始動領域を遊技媒体が通過したことにともづいて第1識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する第1可変表示手段と、第2始動領域を遊技媒体が通過したことにともづいて第2識別情報の可変表示を開始し表示結果を導出表示する第2可変表示手段とを含み、第1可変表示手段または第2可変表示手段のいずれかにおける表示結果

が特定表示結果になったときに特定遊技状態に制御し、第1可変表示手段または第2可変表示手段のいずれかにおける識別情報の表示結果が特殊表示結果になったときに特定遊技状態よりも低い遊技価値を遊技者に付与する特殊遊技状態に制御する遊技機であって、第1始動領域を遊技媒体が通過した後、または第2始動領域を遊技媒体が通過した後に識別情報の可変表示の開始を許容する開始条件が成立したことにともづいて、特定遊技状態に移行させるか否かと、特殊遊技状態に移行させるか否かとを表示結果の導出表示以前に決定する事前決定手段と、事前決定手段の決定結果にもとづいて、第1識別情報または第2識別情報の変動パターン種別を複数種類のいずれかに決定する変動パターン種別決定手段と、変動パターン種別決定手段により決定された変動パターン種別に含まれる変動パターンの中から第1識別情報または第2識別情報の変動パターンを決定する変動パターン決定手段とを備え、事前決定手段は、第1始動領域を遊技媒体が通過した場合と、第2始動領域を遊技媒体が通過した場合とで、異なる割合で特殊遊技状態に移行させると決定するように構成されることによって、設計段階で各変動パターンの出現率の振分を容易に変更することができ、遊技機の開発者の負担を軽減することができる。遊技球が第2始動領域を通過しやすい特別遊技状態中に、特殊遊技状態に移行する割合を低くして、当該特別遊技状態中の特殊遊技状態についての演出回数を減少させ、他の演出の効果を向上させることができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

識別情報の可変表示の開始を許容する開始条件が成立したことにともづいて、特定遊技状態に移行させるか否かを表示結果の導出表示以前に決定する事前決定手段を備え、事前決定手段は、特定遊技状態に移行させると決定した場合に、特定遊技状態の終了後に特別遊技状態に制御する期間を第1の期間、または第1の期間よりも長い第2の期間にすると決定し、第1の期間は、特定遊技状態が終了してから識別情報の可変表示が所定回数実行されるまでの期間であり、報知演出実行手段は、事前決定手段によって特別遊技状態に制御する期間を第2の期間にすると決定された場合に、第1の期間にすると決定された場合よりも高い割合で、第1の期間が終了するときに報知演出を実行するように構成されることによって、特別遊技状態が終了するのか、または継続するのかが第1の期間が終了するときの識別情報の可変表示時に報知演出によって報知され、当該可変表示に対する遊技者の期待感を強烈に惹きつけることができ、遊技興趣を向上させることができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

遊技状態制御手段は、事前決定手段の決定結果にもとづいて、特定遊技状態が終了した後、第1の期間または第2の期間が終了するまで遊技状態を特別遊技状態に制御し、回数計数手段は、遊技制御手段によって特別遊技状態に制御されているときに、事前決定手段によって特定遊技状態に移行させると決定され、当該特定遊技状態の終了後に特別遊技状態に制御する期間を第1の期間、または第2の期間にすると決定された場合に、新たに識別情報の可変表示の実行回数の計数を開始し、報知演出実行手段は、回数計数手段による新たな計数結果にもとづいて、報知演出を実行するように構成されることによって、遊技状態制御手段と報知演出実行手段との特別遊技状態に制御される期間の始期および終期の整合をとることができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

報知演出実行手段は、回数計数手段が計数する回数が所定回数に至る前の識別情報の可変表示時に、当該可変表示の回数に応じて段階的に、報知演出を実行する可能性があることを予告する予告演出を実行可能であるように構成されることによって、どのタイミングで報知演出が実行される可能性があるのかを予告演出により報知し、報知演出が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

報知演出実行手段は、回数計数手段が計数する回数が所定回数となる際の識別情報の可変表示の時間が所定の時間よりも短い場合に、当該可変表示の次の可変表示時に、報知演出とは異なる特別演出を実行するように構成されることによって、報知演出が途中で終了してしまうことを防止できるとともに、当該可変表示（通常、報知演出が実行されるタイミング）の次の可変表示時に特別演出が実行され、特別遊技状態に関する演出が実行されないと遊技者に思わせた上で救済的に特別遊技状態に関する演出（特別演出）が実行され、遊技興趣を向上させることができる。